近代日本の学術に新たな時代を吹き込んだ E・S・モースの軌跡―没後90年からその先へ―

モースの来日と近代日本の曙

エドワード・シルベスター・モースは、1838年(天保9年)に、アメリカのメーン州のポートランドに誕生した。普通教育を受けた後、土地の鉄道会社で製図員を経験した後、ハーバート大学で動物学者ルウイ＝アガッシイ(L. Agassiz)のもとで動物学を学んだ。

明治10年(1877)6月17日に、動物学研究のため来日。数日後、横浜から東京に向かう途中で、汽車の中から貝塚の遺構を発見し、後に「大森貝塚」と名付けられた。モースは、メーン州やマサチューセッツ州にて貝塚発掘を行っていたことも、この発見に影響を与えたとされる。

モースの日本探究

モースは、明治18年に『日本の住居及び其の環境』(邦訳『日本のすまい-内と外』(Japanese Homes and Their Surroundings 1885)という著作を刊行している。国内での行程の際に目にした施設や住居内の様子を描き、その概要について解説したものであり、当時の家屋や人々の生業を知る上でも貴重な文献資料となっている。ここでは熊谷の根岸家主屋についても紹介され、モース来訪時の見聞の様子が思い浮かぶ。

また、『Japan day by day』は、モースが日本に滞在した2年間で見聞した内容を777編に及ぶモース自筆のスケッチと共に記載したもので、上・下2巻組で1917年に発刊された。当時、英語で日本を紹介した書物としては卓越した評価を受けた書物であり、現在でも明治時代初期の生活文化や習俗など日本の様子を知るための重要な資料となっている。

モースと根岸家

黒岩横穴墓の発掘から2年後の明治12年(1879)の8月に、エドワード・S・モースは根岸家のある青山村に来村した。その際、川越の南町(幸町)の金物商の子息で十代の若き宮岡恒次郎とその兄、竹中成憲が通訳として同行した。訪問の様子について、『日本その日その日』には次のように示されている。『八月六日、午後ドクター・ビゲロウと私とは竹中を通弁として伴い、東京から四～五十マイル先の青山に根岸(武蔵)氏を訪問し、彼の住居に近い或種の洞窟(黒岩横穴墓群)を見るために東京を出発した。その夜我々は小村白子(現在の和光市)で送った。』(上掲、135-136頁)この目付には錯誤があるが、史実を語る貴重な記載である。

この同伴した『ドクター・ビゲロウ』が、ウィリアム・スタージス・ビゲロー(Bigelow, William Sturgis 1850-1926)であり、モースの講演を聞いて日本に興味を持ち、来日した。日本美術の収集家として美術品の保存にも寄与したとされ、帰国後の1890年ボストン美術館理事に就任し、収集品の研究を続けた。モースとビゲローの青山村への来村に際して、根岸武蔵に手渡された名刺が残されている。

モースは、根岸宅に滞在中、黒岩横穴墓群を見学したことが、『日本その日その日』に示されている。これによると、モースは根岸に案内されて、「黒岩の洞窟」を踏査した一行の様子が詳細に紹介されている。横穴に関するモースの見解等は記されていないが、「好古家」の武蔵との交流を知る上でも、日本の考古学の揺籃期を知る上でも意義深い訪問であった。

モースが残した絵画

明治15年(1882)10月にも、モースは根岸宅を訪問している。現在根岸家に伝えられているモースの水彩画は、この際にモースによって記されたものであると推察される。この際の渡航記録については定かではないが、年譜に示される第3回目の来日時に再び青山村を訪れたことが分かる。

なお、根岸家の主屋に関しては、『Edward Sylvester Morse』が1886年に公表した『Japanese Homes and Their Surroundings』(『日本人の住まい』)にも記されている。そこでは、次の説明が加えられている。「館は高塀によって表通りから隔絶された、数棟の建物からなるものであった。重々しい感じの門を抜けて入ると広い庭がある。この庭に面して低い平屋建ての長い建物があり、倉庫や使用人の起居するところとなっている。この庭の一番奥の門から見て正面の位置に、住み心地の良さそうな古びた主屋があり、屋根は草葺であった。」これらの記述は当時の根岸家敷地内の建造物の状況を明らかにする資料である。(Y)

(参考・出典 山下祐樹「E・S・モースをめぐる歴史的概説」江南文化財センター)

根岸家主屋描写
モース『日本人の住まい』81頁より

モースとビゲロー が根岸家に渡した名刺
(市指定有形文化財)

根岸家に残されている「モース直筆画」(市指定有形文化財・江南文化財センター寄託)

恒次郎のルーツ

小江戸川越、一番街商店街中央に蔵造りの金物商宮岡家が営む「町勘」が少年の生家である。現在の御当主、宮岡家11代目宮岡明弘氏をお尋ねして通訳をされた。宮岡家は屋号を町屋と称し初代は町屋勘右衛門の父が、元禄12年(1699年)創業された。三代までは六軒町で酒造業、四代から六代までは志義町で割烹料鶴楼を営み七代目の六男周則(ちかのり)氏が恒次郎少年の父親。進取の志の高い周則氏は大阪の旗本竹中姓の株を取得し、竹中姓を名乗った。鳥羽伏見の戦いで功績を上げ、新政府設立時は重用され、岡山倉敷に暮した。周則は三男をもうけ、長男は東京大学医学部卒、幼名を八太郎と称し 20歳で結婚する時に成憲となった。次男が恒次郎 慶応元年(1866年11月29日生)

モースとの出会い

恒次郎は9歳で東京英語学校(現在の東京外語大学)に入学、姓を竹中から宮岡にした。11歳で渡米、生物学の権威、高嶺秀夫博士の書生として12歳の時にモースと恒次郎は会っている。モースの息子ジョンとも友好関係にあった。モースが来日した際、川越の宮岡家を訪問、その後青山の根岸家に滞在した。明治12年の石上寺でのモースの講演の通訳へと繋がって行く。

恒次郎少年のその後

明治15年東京大学法学部に入学。途中休学し、韓国・米国訪問団の通訳として同行している。ニューヨークでは21代米国大統領チェスター・アラン・アーサー氏に謁見した。明治 20年(1887年) 20歳で東京大学法学部を卒業、外務省勤務。米国滞在中留学していた北海道庁の令嬢、正木慶子さんと結婚。外交官として活躍。慶子夫人は東伏見宮家に勤務し、ロンドンまで同行した。その際の記念写真が東京空襲の戦火を逃れ残っていた。宮岡明弘氏より拝見させて頂き圧倒された。その頃の日本人の顔は覚悟をもって凛としている。恒次郎夫人慶子さんが歴史を彩った方々と一堂に写っている。慶子さんの御帽子が東伏見宮妃殿下の冠より高いのではないかと言う逸話が有ったと宮岡氏より伺った。恒次郎は26歳で米国公使、ベルリン勤務を経て、駐米大使を最後に、長青山梅窓院近くの南青山に住まわれた。大正7年 52歳の頃は米国弁護士協会で日本の人権擁護について活動された。大正10年55歳、東京ロータリークラブのチャーターメンバーであった。晩年ドイツのカイゼルが亡くなられた当時の新聞記事に宮岡氏夫妻談が掲載されている。町勘八代目宮岡恒次郎は明治大正の動乱期、天性の探究心と語学力をもって、形式に捕らわれる事無く、海外と日本文化の懸け橋となった。(H)

東郷平八郎元帥　宮岡慶子夫人　東伏見宮殿下　東伏見宮妃殿下　乃木希典大将
明治44年英国ジョージ5世戴冠式(ロンドン・ハイドパークホテルに於いて)

晩年の恒次郎夫妻

文化財で街おこし 愛染明王・愛染堂

「愛染明王」(市指定有形民俗文化財)は、宝乗院愛染堂の本尊として伝来した独特の様相を持つ仏像である。大同元年(806年)、日本一、木三体の一体として造立された後、現在の下川上地区へ流れてきたとの伝承が残されている。像高は、髪際までの高さで約三尺六寸(1.09メートル)を計り、像高1.50メートルで、台座と合わせると、半丈六(2.42メートル)を越える大きさを誇る。

造立の年代については彫刻の様式からすると、伝承とは異なるが、江戸時代前期と推察できる。仏像は三目六臂(さんもくろっぴ)の仏相であり、表面の赤色は日光の輝きを示している。三目の怒相は三界(宇宙)の邪悪を払う形相を示し、六臂は、蓮華や五鈷杵(ごこしょ)、金剛鈴などを持ち、これらは救済を願う形仏相であると言うことができる。江戸時代以降、愛染と「藍染」の関係から、多くの染色業者などとの信仰を受けてきた。

本像を収蔵する「愛染堂」は江戸時代中期に建立されたしかし近年、全体的な老朽化が目立ち、本堂の再建に向けて地元関係者や染色業者などを中心に保存修理委員会が結成された。2015年から保存修理工事が実施され、修理費の寄附募集など、今後の保存に向けての模索が続けられている。

(熊谷市立江南文化財センター　山下祐樹)

宮岡明弘氏　号:圖南
〒350-0063　川越市幸町7-3
049-222-1516

町勘11代目(町勘は7代目三男庄兵衛が継いだ。恒次郎の父である六男周則は旗本竹中姓となった。宮岡明弘氏は庄兵衛の子孫)篆刻家(日展会員、読売書法会理事、謙慎書道会理事、NHK学園講師)篆刻界で日本初の文化勲章受章者である小林斗庵氏が川越一番街の「町勘」のご近所に在住、弟子となり篆刻を習得、多くの門下生を指導している。刃物商「町勘」の当主と書家を両立されている。

第63期熊谷商工信用組合総代会に於きまして ご寄付を賜りました。

当会の活動が地元の活性化に寄与していることをご評価頂き今回もご寄付を賜りました。

「タウンタウン小麦」の発行にご寄付を使わせて頂いております。鴨田理事長様をはじめくましん様には小麦の会の活動にもご参加頂き、大変有りがたく存じます。総代会は情報のディスクロジャーを毎年一冊にまとめ、細かく判り易いご説明を理事長様より直接頂戴いたします。くましん5ヵ年プロジェクトでは①お客様が満足することの徹底②他行との差別化③安定した収益性の確保を基本戦略に挙げ、基本行動を実践されておいでです。17号のランドマーク、くましん本店、並びに支店の益々のご発展をお祈り申し上げます。ご寄附誠にありがとうございました。(H)

鴨田理事長と日向会長

NPO基盤強化資金助成首都圏贈呈式 公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団

二月一日(月)新宿西口の程近く損害保険ジャパン日本興亜火災ビル43階で開催されました「認定NPO法人取得資金」の助成金として二宮雅也財団理事長より贈呈されました。首都圏の助成決定された9団体が出席し、個別発表、意見交換会、NPO法を作られた団体シーズの松原明理事長より認定NPO法人についてお話をうかがいました。現在NPO法人は全国に5万団体あり認定を受けた団体は100団体2%に当たります。まだ少ない団体数です。認定NPO法人に求められる事は①パブリックサポート活動の公益性②狭域性の排除。特定の人たちになっていない③運営組織が確立されている④複式簿記で経理がなされている⑤寄付金の使途が明確になっている⑥情報の公開がなされている。このことを念頭において活動すると認定NPOが判ってくると話された。頂戴した助成金で小麦の会は会計事務の強化を図って行き、活動のステップアップにつなげてゆきたいと思います。(H)

二宮理事長と日向会長

NPO法人 くまがや小麦の会新年会 吉田嘉髙氏 熊谷市文化功労者賞受賞祝賀会

小麦の会会長日向美津江氏のいつもながらの流暢なご挨拶に始りました。小麦の会は創立10周年を迎え、会員250名、情報誌タウンタウン小麦の出版を続け、創立10周年記念誌の出版を計画しています。小麦の会の目標は熊谷にうるおいある文化を育て、勇気と本気で活性化を進めています。当会副会長の吉田氏は熊谷ラグビーの育成により、文化功労者賞を受賞されました。

皆様にご披露された、アトラクションは、ソプラノ歌手友清裕美さんとお母様のピアノ伴奏が演奏されました。素晴らしい歌声に心を癒されました。(Y・T)

吉田副会長とソプラノ友清裕美さん

わーくほーむ江南・わーくほーむ結合同成人式

くまがや小麦の会が毎年行っておりますわーくほーむ江南・わーくほーむ結様の合同成人式のお祝いに参加し、今年成人式を向かえた4名の方に鞄のお祝いを差し上げました。

小麦の会が用意したバウンドケーキの生地を利用者さん全員で計り、成型しオーブンで焼きます。しばらくすると部屋中にいい匂いが立ち込めて皆さんの期待も膨らんできます。出来上がったお菓子は袋詰めしてお土産として持ち帰ります。もちろん美味しく試食もいたしました。利用者さんの二人がお父さんお母さんにお土産で持って帰れると大喜び。家族を思う姿をみてすごく温かい気持ちになりました。

元気と幸せをいただきました。(O)

セレモニーホール 埼玉県熊谷市の葬儀場 ゆうえん
お問合せ・24時間 おきき方 0120-136-444
亡き人に心をこめて JAくまがや指定
万一の場合は当ゆうえんにご相談下さい。
生花祭壇 生前予約葬 ゆうえん友の会
〒360-0813 埼玉県熊谷市円光 1-17-13
TEL：048-525-5444・FAX：048-525-5446

よい環境が、人を育む。 育つ 学ぶ 遊ぶ
2才児教室 Little Risky　Rissho Kindergarten
一貫性のある教育の実現
学校法人 熊谷立正学園 立正大学系列 立正幼稚園
http://www.rissho.ed/jp/
埼玉県熊谷市楊井1748-2
TEL.048-536-1688
FAX.048-536-2168
立正幼稚園公式Facebookページがあります スマートフォンからも簡単に情報をチェック

吉田・櫻井税理士法人
税理士　吉田 嘉髙
税理士　吉田 貴之　税理士　櫻井 富美子
〒360-0014　熊谷市箱田2-2-8
TEL:048-521-0334　FAX:048-521-4506

くぼじまグループ くぼじまクリニック KUBOJIMA CLINIC
理事長・院長　大島譲二
●総合内科（かかりつけ医）
●人工透析
熊谷運動公園北・入院設備有
〒360-0831　熊谷市久保島 1785-2
TEL:048-533-7511（代）FAX:048-533-4606
http://www.kubojima.com/

有限会社 猫のて
御不要になった着物 買取いたします。
査定 見積もり無料
〒360-0161　埼玉県熊谷市万吉 572-161
TEL 048-536-6683
mobile 090-3477-6632(docomo)

株式会社 平松
代表取締役 日向研一朗
歴史が育む無限の可能性…地域密着・食品卸売業
原材料食品は包材まで御用命下さい
We are HIRAMATSU
〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL：048-521-0026
●ビッグベアショッピングモール（埼玉県熊谷市代1067）
西友・トイザらス・スポーツオーソリティー・すたみな太郎・大勝軒
●平松運輸株式会社（埼玉県熊谷市中奈良1797-1）

熊谷の風土と歴史の香りをお届けします
勇猛果敢 熊谷育ビール
そら豆の焼酎 豆蔵
「ゆでたてのそら豆の風味をそのまま生かした若々しい香りと豊かなコク」。日本で初めてのそら豆の焼酎です。
小麦の語らい 熊谷産小麦・米100%使用
全国有数の小麦の名産地、熊谷で造られたさらりとした口当たりの小麦焼酎です。
近江屋酒店
定休日:日曜日
http://www.oumiyasaketen.com/
熊谷市肥塚4-7 TEL.048-521-1009 FAX.048-521-3198

特定医療法人 同愛会 熊谷外科病院
・外科・皮膚科・内科・泌尿器科・消化器科・リハビリテーション科・循環器科・肛門外科・整形外科・乳腺外来・形成外科・糖尿病外来・脳神経外科・看護部
☎ 048・521・4115（代）
〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田3811-1